

社会福祉法人
雄勝なごみ会
主任生活支援員

櫻田 浩子さん
さくらだ ひろこ (52歳)



障がい者支援施設の主任として、
一人ひとりが思いを表現できる居場所づくりに奮闘中

これまでの Story

高校卒業後、秋田市の専門学校に通っていましたが、父親が体調を崩したのをきっかけに地元に戻り、縁あって雄勝福祉会（旧法人名）に就職しました。全くなじみのない福祉の分野でしたので、正直なところ、最初は戸惑いがありました。「どんな職場でも大変さは同じ。まずは続けたほうがいい」という家族の励ましに支えられながら1年、2年と続けていくうち、少しずつ働く楽しさを見つけられるようになりました。

利用者さんに励まされて

仕事に対する考え方やモチベーション

本当に私が主任でよいのだろうかと思うことも多いのですが、目の前の利用者さんに対して、どう支援していけば喜んでくれるかな、思いに応えられるかなと考え、試行錯誤を繰り返しながら日々仕事をしています。

仕事のモチベーションとしては利用者さんの存在が大きいです。私が悩んでいるときには利用者さんがコーヒーを出して雑談につきあって

くれたりします。手が不自由なのに何でもできる利用者さんの姿に感動を得る場面も多くあります。

職場結婚をした夫が、仕事を理解して話し相手になってくれることも、継続の力になっています。多くの人に支えられ励まされて仕事ができていると感じます。



自主的に支援できる環境を

利用者さんの満足度を保つにはどうやって職員を育てていくか、という人材育成の視点が欠かせません。そういう中で、今までは決められた事だけを行っていく支援が多かったのですが、できるだけそれを取り払って、スタッフが自主的に考えて支援できるよう目下努力しているところです。しかし、スタッフ間での意見の相違もあります。話し合わない前に進まないこともあり、より一層活発に意見交換できる職場環境にしていきたいと思って取り組んでいます。

キャリア形成に役立ったスキルや経験

社内には福祉の学校を卒業している職員が多いのですが、私は福祉の知識を持たずにこの分野に入ったので、入社当初は分からないことだらけでした。介護福祉士の資格取得の時期は子育て真っ最中の頃と重なり大変でしたね。子どもが学校に行っている間や家事の合間など細切れの時間を使って繰り返し勉強しました。

それ以上に大変だったのが、2年前に取得した痰吸引の認定特定行為業務従事者の資格です。覚えることがたくさんある上、実技演習や筆記試験もあったため、既に資格取得した後輩に何度も一緒に確認してもらい、なんとか取得することができました。

profile

- 20代 専門学校を卒業後、雄勝福祉会に入社
結婚、第一子、第二子出産
高齢者施設へ異動
- 30代 障害者施設へ異動
- 40代 リーダー、副主任を経て主任に昇進



雨が上がったので、体育大会を控えた利用者さんとボール投げの練習へ。

現在の仕事の悩み

障がい者福祉では、これまで行政が必要に応じてサービス内容を決定していましたが、現在は、利用者が自らの意思でサービスを決定できる「契約」へと制度や考え方が変わってきています。利用者さんの主体性を大事にしながら、やりたいことを自ら選択してもらおう方向への変革が必要です。

いろいろ試みてはいるのですが、ここに数十年入所されている利用者さんには長年慣れ親しんだ習慣もあり、ちょっとやそっとでは変化は起きにくいと感じています。職員の気持ちも含めて、どう対応していくかが悩みであり課題です。



夫と二人三脚で

プライベートと仕事の両立

出産後、育休を取得して仕事復帰しましたが、子どもたちが病気がちで入院が多かったことと、早朝・夜間勤務があったので仕事と家庭の両立は容易ではありませんでした。

幸い、夫が同じ法人の職員で理解があり、子どもたちの保育園への送り迎えや、病院の付き添いをしてくれてとても協力的だったのでここまで歩んでくることができました。

今では子どもたちも大きくなったので、休日は夫と一緒に山形や仙台へのドライブを楽しんでいます。

もう一つの楽しみは、「ああ、今日も一日、何事もなく無事に過ごせたな」という気分で呑む、仕事後のビールですね！

ひろこさんの応援団

若い頃から一緒に働いているのですが、明るくて頑張り屋さんです。今ほど制度が整わない中で、子育てしながら仕事を続けてきた経験者なので、今は、子育て中の後輩スタッフの心強い味方ですね。施設では、支援のありかたについて変革を進めているのですが、その中でもリーダーシップを発揮して頑張ってくれています。



生活支援課長 柴田 乃里子さん